

## AGENOSHOH TOWN

—エコツーリズムのためのランドスケープデザイン—

灰山研究室

016031 新山 晶子

近年、環境に対する意識が高まり、持続可能性が重視されるようになった。観光も例外ではない。エコツーリズムがブームになっているのもそんな背景があるからだ。

住む人にとって魅力ある町は、旅行者にとっても何度も訪れたいくなるまちではないだろうか。まちの歴史や自然と溶け合った文化、景観を大切にしていくことは、そこに住む人々にも旅行者にも心の潤いをもたらす。地域の文化や自然を愛する住民が、旅行者とともに、まち全体をさらに魅力ある文化にしていくことが、持続可能な形で観光を発展させていくことにつながるのだ。

この小論の舞台となる山口県周防大島町の安下庄は、工業化された瀬戸内海沿岸の中では貴重といえる自然景観と小さな歴史文化を残しているが、一部の釣り客以外、エコツーリズムは未だ芽生えてはいない。

テーマは、人と自然との共生、人や自然に優しい持続可能な環境づくりとまちづくり。それが、安下庄のエコツーリズムのためのランドスケープデザインである。

ランドスケープデザインは、街路や公園、建物と言った単なるまち空間の創造ではなく、社会、経済、文化、環境等、生活の根幹を構成するあらゆる要素をも含めた暮らしそのものの創造だと考えている。したがって、ランドスケープは自治体や民間企業、専門家などまちのつくり手によるプランニングやデザインといった空間づくりだけではなく、住民やNPOなどのまちの使い手による町並みの保存や再生、コミュニティ・ボランティア活動などを含めた総合的・複合的な行為によって初めて実現されるものであるといえる。また、ランドスケープは、まち空間の完成とともに完了するものではなく、そのまち空間が生活の場として使われていく中で、長い年月をかけて行われる継続的な創造活動である。

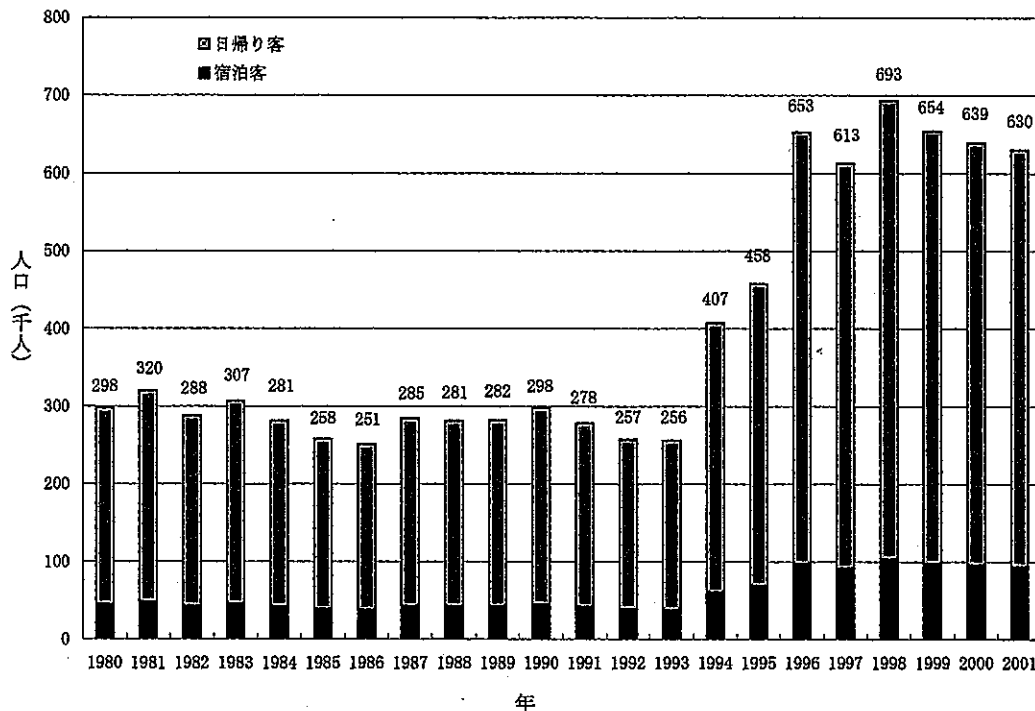
本編ではエコツーリズムとパーマカルチャーをうまく共生させながら、健全なまちづくりの推進を図るための提案をする。

パーマカルチャーとは、持続可能な農業を基本とし、水・土・植物・畜産・水産・建造物・人々・経済・都市と農村、これら全てを考慮し、組み合わせることで地域全体を設計するところに特色がある。もちろん生産性も求め、デザイン性も考慮される。また地域の気候・特色を生かし、伝統文化を見直し、現代の我々の生活に取り入れようとする。すなわち「ひとつの町を続けるための提案」である。

## 観光振興の現状

市町村内総生産の構成比が大きいのは第三次産業である。これは、広い意味での観光産業が支えている面が強い物と思われる。ただ、周防大島地域の観光客は日帰り客が圧倒的に多く、宿泊客は15%程度に過ぎないのが現状である。

周防大島の観光客数

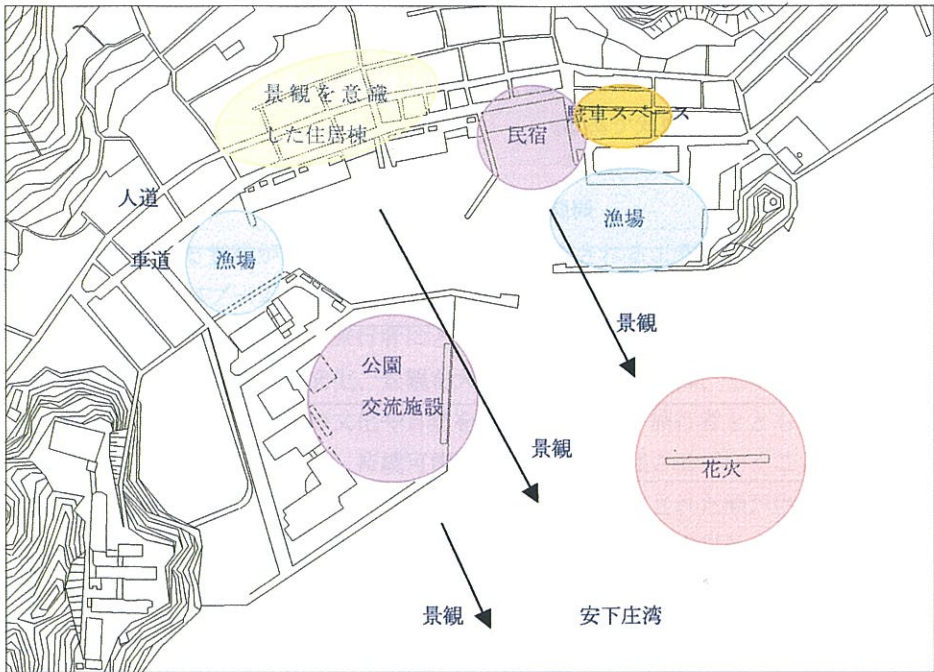


## 安下庄の土地利用（ランドスケープ）に関する問題点

- 十分な駐車スペースがない。
- 人と車が同じ道路を利用しているため、危ない。（海側に大きな道路があるが、あまり利用されていない。）
- 港や新しくできた埋立地がうまく活用されていない。
- 住民たちの気軽に集う場所がない。
- 各住居に十分な庭がない。
- 民宿などの宿泊施設が観光・交流ゾーンの周辺にない。

以上の問題点は、これから計画するまちづくりに基づいて、理想的な流れとなり、うまくつながっていくように改善していかなければならない。

### 理想的な流れ



現在2つ並んである道路を人専用と、車専用とに分ける。そうすることにより、住民や旅行者たちの安全が保たれるほか、駐車スペースを活用する人が増える。また、駐車スペースは、平日を有料、土日を無料化し、地元住民の無断駐車を減らし、なおかつ旅行者たちは駐車時間を気にすることなく安下庄を楽しむことができる。

また、港に民宿を計画することで、地元の人々の働く姿や、ふれあい、そして安下庄湾の美しい景観を目にすることができる。公園や交流施設は新しく埋立てされた土地に設け、なおかつ海側に配置することで、住民たちの行動範囲も広がり、エコツーリストとの交流も深まる。

しかし、各施設は海への視線を遮ることのないように計画しなければならない。